

【7-5-f】

新潟県下越地方における歴史的建造物群の残存状況と建築特性

—新潟市及び西蒲原郡を対象として—

REMAINING CONDITION AND ARCHITECTURAL CHARACTER OF HISTORIC BUILDINGS
IN KAETSU AREA, NIIGATA PREFECTURE

-A case of towns and villages in Niigata city and Nishikanbara-gun -

渡辺 篤史*1,

Atsushi WATANABE,

岡崎 篤行*2

Atsuyuki OKAZAKI

本研究では新潟県下越地方における歴史的建造物群の残存状況と建築特性を明らかにする中で、新潟市及び西蒲原郡を対象とした。平均残存率は14%で、曾根、巻、吉田において残存状況が良好であった。歴史的建造物の多くは戸建で町屋型の配置が多い。町屋の棟向きは堅屋が多く、丁字は新潟を中心に多いものの、南部は堅屋の割合が高い。町屋の細部意匠では銅製戸袋やなまずが見られた。また町は軸と町屋の棟向きから単軸型と複軸型に分類できる。

Keywords *Historic Buildings, Remaining condition, Town house, Tateya, Yokoya,*

歴史的建造物群, 残存状況, 町屋, 堅屋, 横屋

1 研究の背景と目的

現在、歴史的建造物⁽¹⁾や町並みを活かしたまちづくりが全国各地で行われている。文化庁が1998年に歴史的町並みの全国的な調査¹⁾を行っているが、網羅的に行っているとは言えず、都道府県レベルで調査を行い重要な集落を拾い出すことが必要である。

歴史的建造物の調査・研究は、農家に関して全国規模で体系的に研究²⁾が行われてきている。一方町屋は近畿圏を中心に全国の主要な町屋を研究³⁾したものがあがるが、農家のように全国的規模で体系的な研究はなされていない。そこで都道府県レベルで網羅的に町屋の調査を行ない広域的視点から分析を行なう必要性がある。

そこで新潟県全域で網羅的に町屋の調査を行なう中で、本研究では岩船郡⁴⁾、北蒲原郡⁵⁾、中蒲原・東蒲原郡⁶⁾に引き続き、新潟市⁽²⁾・西蒲原郡を対象とする。町屋が存在した可能性のある町場と街道沿いの集落において歴史的建造物の抽出を行い①歴史的建造物群の残存状況を明らかにし町屋を中心とした②歴史的建造物群の建築特性を明らかにする。

2 研究の方法

文献7)より、対象地域内の街道の位置を把握し、文献8)より町場と街道沿いにある集落の位置と属性を把握する。さらに住宅地図と文献9)で現存する集落を確認する。確認できた集落のうち町場と街道沿いに町屋が5棟以上確認できた村落において、敷地外の傍観できる範囲で、建造物外観の悉皆調査を行う。これらから歴史的建造物の残存状況と歴史的建造物種類を把握する。さらに町屋に関して外観形態の類型化と細部意匠の把握を行なう。集落の調査範囲は、絵図や住宅地図、文献9)を用いて決定する。

3 対象地概要と集落の抽出

対象地は新潟県の中央部から北東部にかけて位置し、面積約570平方km、人口約70万人である。海岸の砂丘地帯、弥彦山・角田山を除き大部分が平野部で信濃川・阿賀野川の河口に位置し、その他西川・中之口川が流れる。

文献7)より主要な街道として、北国街道、その脇道である西川通り、三国街道、北国街道浜通り、新発田街道、亀田道を把握した。文献8)より町場は19集落、把握した

*1 新潟大学大学院自然科学研究科 博士後期課程・修士(工学) Grad. Student, Grad. School of Science and Tech., Niigata Univ., M.Eng.

*2 新潟大学工学部建設学科 助教授・博士(工学) Assoc. Prof., Dept. of Civil Eng. and Arch., Faculty of Eng., Niigata Univ., Dr. Eng.

主要な街道沿いの村落は80集落であった。(図1)

信濃川河口の新潟は近世に北前船の寄港地、さらに明治には開港五港の一つに指定され港町として発展し、対岸の沼垂も新発田藩の湊町として発展してきた。このほか地域の中心として発展した在郷町が点在し、現在も中心となっている。これらの多くは河川沿いに位置し物資輸送手段の一つとして舟運が利用されていた。

4 歴史的建造物群の残存状況と集落評価

4-1 町屋が確認できた集落

全99集落のうち、町屋が確認できた集落は32集落であった(図1)。そのうち町屋が5棟以上確認できた集落は15集落であった。太夫浜(宿場町)を除いた町場では町屋を確認することができた。また、村落でも町屋が確認できた集落が15集落あった。町屋が確認できた村落は北国街道沿いで他の街道に比べ多く見られた。

4-2 歴史的建造物群の残存状況(表1)

町場と町屋が5棟以上確認できた村落において、全建造物数21561棟のうち歴史的建造物は3029棟と考えられ全体の残存率⁽³⁾は14%であった。歴史的建造物のうち主屋は2491棟で全体の歴建主屋率⁽⁴⁾は82%であった。

集落ごとに見ると最多残存棟数は新潟で1373棟、最高残存率は曾根で29%、主屋残存率⁽⁵⁾⁽⁶⁾がもっとも高いのも

曾根で25%であった。また主要な街道沿いの街道残存率⁽⁷⁾がもっとも高い集落は曾根で30%であった。

4-3 残存状況からみた各集落の評価

残存状況が良好な集落を把握するため各集落の評価を行なう。評価方法は、歴史的建造物総数、主屋歴建数、歴建主屋率、残存率、主屋残存率、街道主屋率を5段階に分類する。段階に応じ1-5の点数をつける。これらの点数の合計をさらに5段階に分けて総合評価とする(表2)。

以上の方法で評価を行なった結果、A評価になった集落は曾根、吉田、巻の3集落であった。残存状況を総合的に見ると曾根、吉田、巻の3集落が良好と言える。

5 歴史的建造物の分類

5-1 用途による歴史的建造物の分類

歴史的建造物を用途、配置形態から「戸建」「長屋」「土蔵」「小屋」「神社」「寺」「教会」「公共建築」に分類した(図2)。その結果、戸建が2103棟と最も多くなった。

5-2 「戸建」の配置形態

「戸建」の配置形態を、接道状態、接隣状態、玄関位置から「町屋」「準町屋(図3)」「準屋敷」「屋敷型町屋(図4)」「町

表1 残存状況と集落評価

	残存棟数	主屋残存棟数	残存率	主屋残存率	歴建主屋率	街道残存率	総合評価
1	新潟 1373棟	新潟 1305棟	曾根 29%	曾根 25%	新潟 95%	曾根 30%	曾根 A(27点)
2	沼垂 398棟	沼垂 332棟	吉田 24%	吉田 24%	沼垂 83%	吉田 29%	吉田 A(27点)
3	吉田 234棟	吉田 183棟	赤塚 21%	中島 21%	燕 82%	巻 22%	巻 A(26点)
4	燕 143棟	燕 117棟	巻 21%	巻 19%	吉田 78%	地藏堂 22%	燕 B(25点)
5	巻 130棟	巻 96棟	月潟 21%	月潟 17%	巻 74%	燕 22%	沼垂 B(25点)

表2 集落評価の基準

点数	歴建総数	主屋歴建数	残存率	主屋残存率	歴建主屋率	街道残存率	総合得点	
A	5点	101棟~	61棟~	25%~	25%~	81%~	25%~	26点~
B	4点	~100棟	~80棟	~24%	~24%	~80%	~24%	21~25点
C	3点	~75棟	~45棟	~18%	~18%	~60%	~18%	16~20点
D	2点	~50棟	~30棟	~12%	~12%	~40%	~12%	11~15点
E	1点	~25棟	~15棟	~6%	~6%	~20%	~6%	6~10点

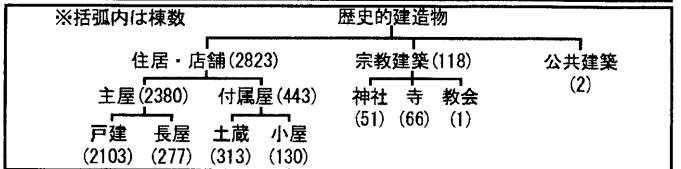


図2 歴史的建造物の分類

表3 「戸建」の配置形態

	接道	半接道	非接道
接隣			
	町屋	準町屋	準屋敷
片接隣			
	屋敷型町屋	町屋型屋敷	屋敷
非接隣			
	屋敷型町屋	町屋型屋敷	屋敷

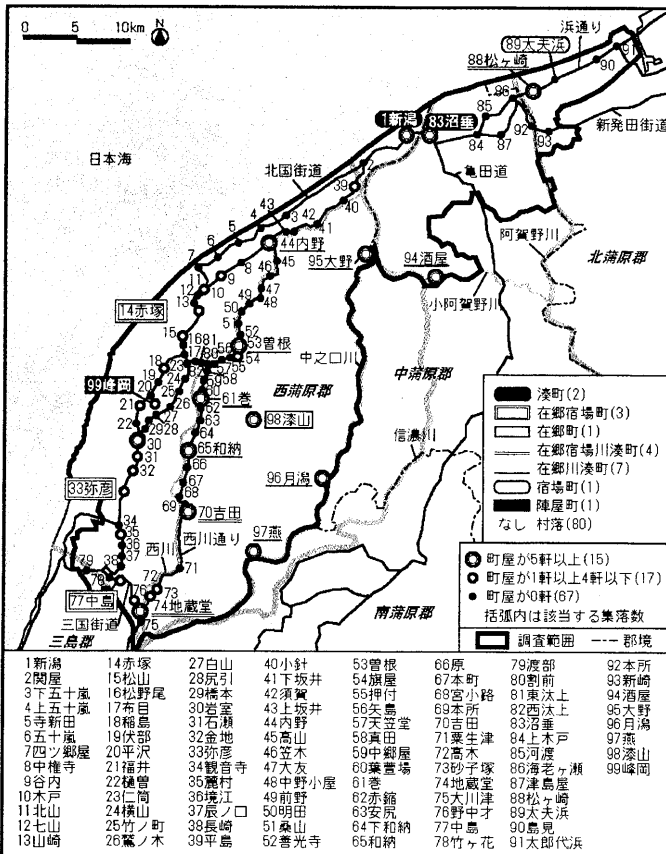


図1 対象集落と町屋の棟数

屋型屋敷」「屋敷」に分類した(表3)。「屋敷型町屋」は町屋同様前面道路側に玄関を持つが、広い庭があり屋敷的である。「町屋型屋敷」は庭側に玄関があるため屋敷であるが、接道か半接道なので景観的視点では町屋的である。

対象集落全体としては町屋が1636棟と圧倒的に多い。集落ごとに「戸建」の配置形態を見ると、湊町と在郷町のうち北国街道沿いの集落を除く多くの集落では「町屋」が大部分を占めている(図5)。漆山は町屋が半数以上を占めるが準町屋の割合が高く、町場と村落の間のような雰囲気を持つ。中島、赤塚は在郷宿場町であるが、町屋の割合が低く町屋型屋敷の割合が高い。近世以降、越後平野では新田開発が進むと同時に、地域の中でも中心的役割を果たし、町場の要素を持つ在郷町が河川沿いに作られた。近世以降に発展し現在も短冊状の敷地割が残る在郷町において町屋の割合が高くなった。

6 町屋の建築特性

6-1 町屋の棟向き(図6)

全体としては「縦屋」が1003棟(55%)、「丁字」が438棟(24%)、「横屋」が338棟(18%)であった。また、「横屋」の間口と奥行きに着目するといずれも間口より奥行きが短いものであった。新潟市・西蒲原郡では村上や高田で見られる間口より奥行きが長い横屋は1棟も見られなかった。

新潟を中心に丁字が普及し、南部ほど丁字が少なく縦屋の割合が高くなった。

6-2 町屋のファサードの類型化

町屋のファサードを「形態」「屋根形状」「二階開口部形式」「一階前面形式」「外壁仕上げ」の項目から類型化した。「形態」とは建物の規模表し、高さ、棟の向きから成り立つ。高さを捕らえる場合、階数のみで捉えるのではなく、1階高と2階高の高さの比^⑨からも考える。「一階前面形式」は下屋、雁木、庇の有無、「二階開口部形式」は張出二階、出窓の有無で分類した。

町屋のファサードは85パターンに類型でき、5集落以上で見ることができたものは11パターンあった。その一つが縦屋、二階建(高)、張出二階、雁木のタイプ(表4①)で曾根、巻、吉田、地蔵堂、大野、燕で確認できた。また、特定の集落でしか確認できなかったタイプの一つとして、漆山で見られた縦屋で下屋部分に妻入りの玄関が付属するもの(表4②)が挙げられる。

6-3 町屋の細部意匠

新潟県内の他郡同様、「せがい造り」「戸袋」「窓付き雨

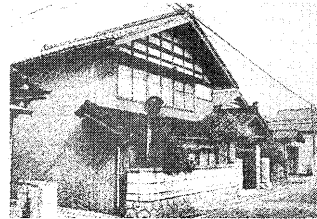


図3 準町屋

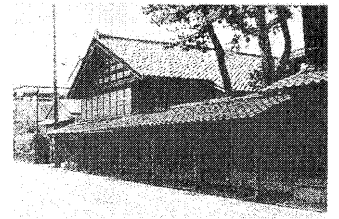


図4 屋敷型町屋

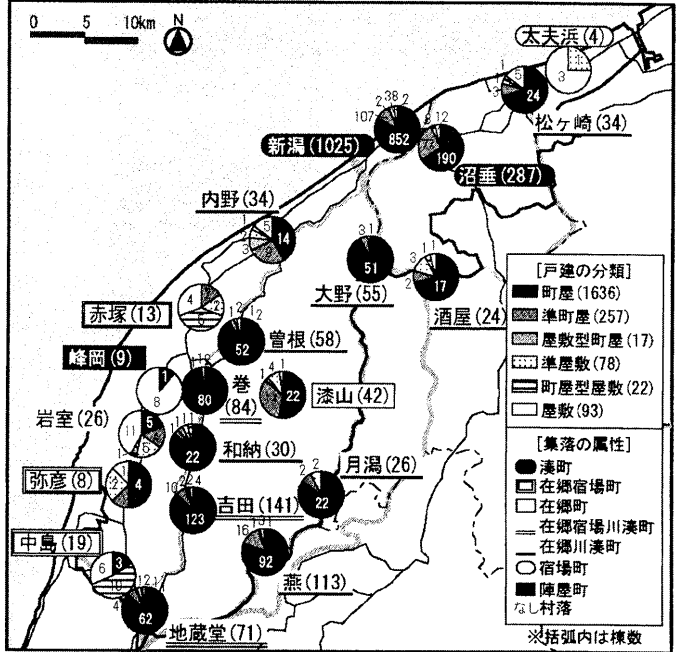


図5 「戸建」の分類

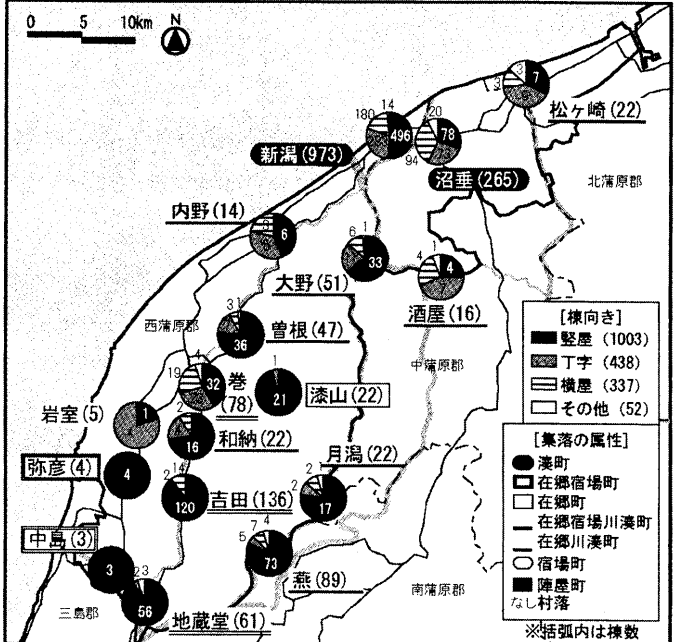




図6 町屋の棟向き^⑧

表4 町屋のファサード分類

写真		
	① 地蔵堂	② 漆山
棟の向き	縦屋	縦屋
高さ	二階建(高)	二階建(高)
二階開口部形式	張出二階	張出二階
一階前面形式	雁木	前下屋+妻入り玄関
屋根形状	切妻	切妻
外壁仕上げ	妻面真壁漆喰	妻面真壁漆喰

戸」「ガラス雨戸」が見られた。「戸袋」では木製が大半だが曾根、巻、吉田、燕において銅製のものが見られた。「柄振板(図7)」は、中蒲原郡同様に確認することができ、対象地域全体で見ることができた。「なまず(図8)」は外壁を東石の外側にまでかぶせ、外壁下部を斜めにして雨水の浸入を防ぐもので、吉田と燕で見ることができた。

7 町の構造と町屋の棟向き

主要な街路が1本で線的に広がる町を「単線町」、複数本で面的に広がる町を「複線町」とすると在郷町のすべてが「単線町」、新潟と沼垂が「複線町」となった。単線町である在郷町では街路が軸に、新潟と沼垂では河川が軸となり町が構成されている。町の軸と町屋の棟向きを見ると、軸に対してのみ堅屋になる「単軸型」と軸以外に対して堅屋になる「複軸型」に分類することができた。単線町のうち規模の小さい曾根、岩室、月潟は「単軸型」、規模が大きい巻(図9)、吉田、燕は「複軸型」に、「複線町」のうち新潟(図10)は「単軸型」、沼垂は「複軸型」となった。

8 結論

- ①新潟市・西蒲原郡は在郷町15集落と多く、点在する地域。町屋が5棟以上を確認できた集落は15集落で、歴史的建造物は2998棟、平均残存率は14%であった。最多残存棟数は新潟の1373棟、最高残存率は曾根の29%であった。残存状況のよい集落は曾根と吉田、巻である。
- ②近世以降発展した河川沿いの町場では歴史的建造物の大半が町屋だが、赤塚のように屋敷系の割合が高い集落、漆山のように準町屋が多い集落もあり、多様である。
- ③町屋の棟向きは堅屋がもっとも多く、次に丁字が多い。新潟を中心に丁字が普及してるが、南部ほど普及せず堅屋の割合が高い。村上で見られる間口より奥行きが長くなる横屋は1棟も見られなかった。
- ④町屋のファサードには堅屋・二階高(高)・張出二階・雁木になるもののように地域全体に多く見られるものがある一方、漆山で見られる前下屋の玄関に堅屋の屋根がつくもののように特定の集落でしか見られないものがある。
- ⑤町屋の細部意匠は「せがい造り」「戸袋」「窓付き雨戸」「ガラス雨戸」「柄振板」「なまず」が見られた。銅製の戸袋やなまずは一部の集落で見られた。
- ⑥町は構造から「単線町」「複線町」に分類でき、町の軸と町屋の棟向きの関係から「単軸型」「複軸型」ともに「単軸型」「複軸型」に分類できる。

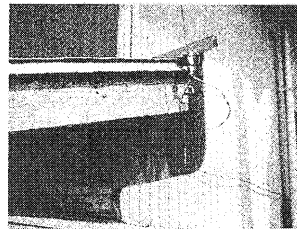


図7 柄振板

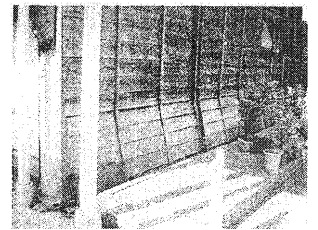


図8 なまず

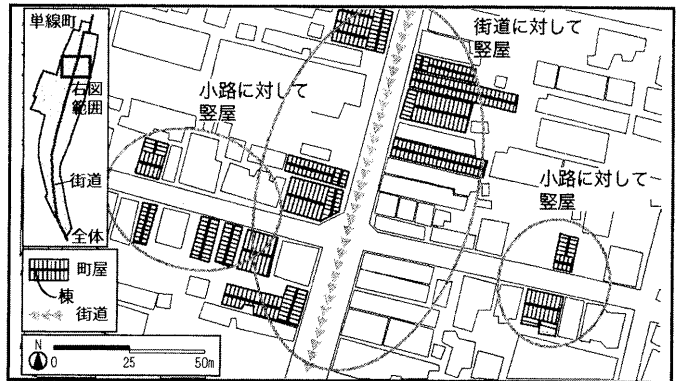


図9 巻の屋根伏図(単線町複軸型)

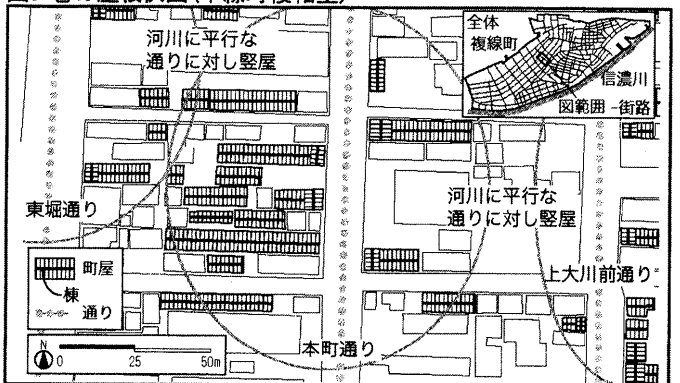


図10 新潟の屋根伏図(複線町単軸型)

【補注】

- (1)本研究では、歴史的建造物を「第2次世界大戦以前に建てられた建造物」と定義する。
- (2)2005年合併以前の市域。旧北・中蒲原郡であった地域の一部を含む。
- (3)歴史的建造物総数/全建造物総数*100(%)
- (4)歴史的建造物のうち主屋数/歴史的建造物総数*100(%)
- (5)歴史的建造物のうち主屋数/全建造物のうち主屋数*100(%)
- (6)新潟下町調査時に全建造物のうち主屋数を把握していなかったため新潟のみ対象外
- (7)街道に面する歴史的建造物数/街道に面する建造物数*100(%)
- (8)新潟と沼垂は町屋以外の主屋も含む
- (9)二階高が一階高の半分以下の場合、二階建(低)とし、半分以上の場合、二階建(高)とする。

【参考文献】

- 1)財団法人日本ナショナルトラスト編集「伝統的集落における歴史的環境整備中心とした地域活性化方策の調査・検討」文化庁文化財団保護部, 1998
- 2)奈良国立文化財研究所「日本における近世民家(農家)の系統的発展」1985
- 3)大場修「近世近代町屋建築史論」中央公論美術出版, 2004
- 4)佐藤憲明, 岡崎篤行「新潟県岩船郡における歴史的建造物群の残存状況と外観特性-下越地方の街道沿いを対象として(その1)-」日本建築学会計画系論文集No160, pp141-145, 2006. 12
- 5)五十嵐浩「新潟県における歴史的建造物群の残存状況とその建築的特性-北蒲原郡地域の街道沿いの集落を対象として-」新潟大学大学院自然科学研究科環境システム科学専攻修士論文, 2005. 2
- 6)加藤健二「新潟県下越地方における歴史的建造物群の残存状況と建築特性-中蒲原・東蒲原両郡地域を対象として-」日本建築学会北陸支部研究報告集第49号, 2006. 7
- 7)小村式「図説 新潟県の街道」郷土出版社, 1994
- 8)草間文績「越後輿地全図」1818
- 9)山口恵一郎「日本図誌大系 中部II」朝倉書店, 1974